



## パーティションとサーチスペースの管理

---

パーティションおよびサーチスペースを使用すると、Cisco Unity Connection 内のグローバルダイヤル/メッセージ宛て先指定スペースを分離できます。パーティションには、内線番号、名前、または SMTP アドレスで識別可能なオブジェクト（ユーザ、コールハンドラ、連絡先など）の論理グループが含まれます。サーチスペースには、パーティションの順序付きリストが含まれます。

次の各項を参照してください。

- [概要：パーティション \(P.28-2\)](#)
- [概要：サーチスペース \(P.28-3\)](#)
- [デフォルトのパーティションとサーチスペース \(P.28-3\)](#)
- [サーチスペースの例 \(P.28-4\)](#)
- [Cisco Unity Connection でのサーチスペースの機能 \(P.28-6\)](#)
- [パーティションの管理 \(P.28-10\)](#)
- [サーチスペースの管理 \(P.28-12\)](#)
- [システムのデフォルトパーティションとデフォルトサーチスペースの変更 \(P.28-14\)](#)
- [パーティションまたはサーチスペースに属するオブジェクトの検索 \(P.28-15\)](#)

## 概要：パーティション

Cisco Unity Connection で、オブジェクトをグループ化する手段としてパーティションを作成します。発信者やユーザは、**Connection** と対話しながら、これらのオブジェクトをメッセージの宛先として指定したり、これらのオブジェクトに電話をかけたりできます。1 つまたは複数のパーティションをグループ化して、1 つのサーチスペースのメンバーとすることができます。また、1 つのパーティションを複数のサーチスペースのメンバーとすることもできます。パーティションには、次のタイプのオブジェクトが属します。

- メールボックスを持つユーザ（プライマリ内線番号）
- ユーザの代行内線番号
- 連絡先（VPIM 連絡先を含む）
- システム同報リスト
- システム コールハンドラ
- ディレクトリ ハンドラ
- インタビュー ハンドラ
- VPIM ロケーション

また、ユーザテンプレート、連絡先テンプレート、およびシステム コールハンドラ テンプレートを使用して、これらのタイプの新しいオブジェクトのパーティションメンバシップを設定することもできます。

パーティションには、関連付けられた内線番号がないオブジェクト（一部の連絡先やシステム同報リストなど）を含めることができますが、内線番号はパーティション内で一意である必要があります。オブジェクトの名前は、パーティション内で一意である必要はありません。システム連絡先の電話番号も、パーティション内で一意である必要はありません。

通常、オブジェクトは1つのパーティションのメンバーにしかありません。ただし、あるユーザのプライマリ内線番号を1つのパーティションに含め、さらに同じユーザの代行内線番号を別のパーティションに含めることは可能です。

ユーザに対して定義された代行ユーザ名がある場合は、ユーザの内線番号が含まれている各パーティション内でその代行ユーザ名を使用できます。

## 概要：検索スペース

検索スペースは、ユーザまたは外部発信者が Cisco Unity Connection と対話しながら到達できるオブジェクト（ユーザや同報リストなど）の検索範囲を定義するために使用されます。たとえば、ユーザに適用される検索範囲は、そのユーザがメッセージの宛先に対して指定できるユーザ、同報リスト、または VPIM 連絡先を特定します。また、ユーザに適用される検索範囲は、音声認識カンパセーションの使用時にそのユーザが名前ダイヤルする方式で電話をかけることのできるユーザやシステム連絡先も特定します。

検索スペースを使用して検索範囲を設定できるのは、次のタイプのオブジェクトです。

- メールボックスを持つユーザ
- ルーティングルール（直接ルーティングと転送ルーティングの両方）
- システム コールハンドラ
- 電話ディレクトリ ハンドラ
- 音声対応ディレクトリ ハンドラ
- VPIM ロケーション

また、ユーザテンプレート、連絡先テンプレート、およびシステム コールハンドラ テンプレートを使用して、これらのタイプの新しいオブジェクトの検索範囲を設定することもできます。

検索スペースは、1 つまたは複数の順序付きパーティションで構成されます。Connection は、発信者ためにオブジェクトを検索するとき、検索スペースでパーティションが配列されている順序でパーティション内を検索します。内線番号はパーティション内で一意である必要がありますが、検索スペース内では一意でなくても構いません。したがって、検索スペースを使用して、オーバーラップしている内線番号があるダイヤルプランを処理できます。

たとえば、Regional\_Office と Headquarters という 2 つのパーティションがあり、それぞれに内線番号 4000 を持つ Help Desk ユーザが含まれているとします。この順序でこれら 2 つのパーティションが割り当てられた検索スペースに支社のユーザが属している場合、このユーザが内線番号 4000 を宛先に指定すると、Connection は、Regional\_Office パーティション内の Help Desk ユーザを返します。本社の別のユーザが、逆の順序（Headquarters、Regional\_Office の順）でパーティションが割り当てられた別の検索スペースに属している場合、このユーザが内線番号 4000 を宛先に指定すると、Headquarters パーティション内の Help Desk ユーザの情報が再生されます。

## デフォルトのパーティションと検索スペース

Cisco Unity Connection リリース 7.x をインストールするか、このリリースにアップグレードすると、パーティションに属するすべてのオブジェクトは、<サーバ名> Partition という名前のパーティションに置かれます。また、検索スペースを使用するように設定されたすべてのオブジェクトは、<サーバ名> Search Space という名前の検索スペース（この中には、<サーバ名> Partition が唯一のメンバーとして含まれる）を使用します。また、すべてのテンプレートは、該当する場合、このパーティションと検索スペースを使用するように設定されます。したがって、デフォルトでは、Connection が使用するサーバ全体のパーティションと検索スペースは 1 つだけです。デフォルトのパーティションおよび検索スペースは、名前変更または削除することができます。また、デフォルトの検索スペースは、説明やパーティションメンバシップを変更することで修正できます（P.28-14 の「システムのデフォルトパーティションとデフォルト検索スペースの変更」を参照してください）。

## サーチスペースの例

次の各項を参照してください。

- [単一サイトの自動受付サーチスペースの例 \(P.28-4\)](#)
- [複数サイトのサーチスペースの例 \(P.28-5\)](#)

### 単一サイトの自動受付サーチスペースの例

A 社には、カスタマー サービス部門への通話を処理する自動受付として設定されている Cisco Unity Connection サーバが 1 台だけあります。このサーバは、ユーザ間のボイス メッセージも処理します。A 社のすべての従業員は、Employee パーティション内にプライマリ内線番号を持っています。また、カスタマー サービス部門の従業員は、Customer Service パーティション内に代行内線番号も持っています。

Connection サーバには、次のサーチスペースと、関連するパーティションメンバシップが設定されています。

サーチスペース	パーティションメンバシップ (リスト順)
Employees-SS	Employee、Customer Service
Customer-Service-SS	Customer Service

また、外部発信者がアクセスするコールルーティングは、Customer-Service-SS サーチスペースを検索範囲として使用するよう設定されています。外部発信者が対話するシステムコールハンドラおよびディレクトリハンドラは、検索範囲を通話から継承するよう設定されています。

この例では、ユーザが Connection に電話をかけてログオンすると、社内の他のユーザをメッセージの宛先に指定したり、電話をかけたりできます。ただし、外部発信者が Connection に電話をかけ、自動受付にアクセスした場合は、Customer Service パーティション内に代行内線番号を持つ従業員だけにアクセスできます。

この例を発展させて、A 社には同一の内線番号を共有する 2 人のオペレータ (Employee パーティション内に内線番号 411 を持つ内部オペレータと、Customer Service パーティション内に内線番号 411 を持つ外部オペレータ) がいるとします。外部発信者が内線番号 411 にアクセスを試みると、Connection はその発信者を外部オペレータにルーティングします。これは、このオペレータが Customer-Service-SS サーチスペースのパーティションに含まれている唯一のオペレータであるためです。従業員が Connection に電話をかけてログインし、内線番号 411 にアクセスを試みると、Connection はその従業員を内部オペレータにルーティングします。これは、Employees-SS サーチスペースのパーティションメンバシップにおいて、このオペレータの内線番号が含まれている Employee パーティションが、外部オペレータの内線番号が含まれている Customer Service パーティションより先にリストされているためです。

## 複数サイトのサーチスペースの例

B 社には、デジタルネットワークで接続された 3 つの Cisco Unity Connection ロケーションがあります。これらのロケーションは、Headquarters、Regional-East、Regional-West の 3 つのサイトに対応します。

この設定は次のとおりです。

- Connection には、次のサーチスペースと、関連するパーティションが設定されています。

サーチスペース	パーティションメンバシップ (リスト順)
Headquarters-SS	HQ、Primary、RE、RW
Regional-East-SS	RE、Primary
Regional-West-SS	RW、Primary

- 次のユーザアカウントが設定されています。

ユーザ	ホームサーバ	ユーザのサーチスペース	プライマリ内線番号およびパーティション	代行内線番号およびパーティション
Alex Abade	Headquarters	Headquarters-SS	85553001、Primary	3001、HQ
Chris Brown	Headquarters	Headquarters-SS	85553002、Primary	3002、HQ
Pat Smith	Regional-East	Regional-East-SS	82223001、Primary	3001、RE
Shannon Johnson	Regional-East	Regional-East-SS	82223002、Primary	3002、RE
Robin Smith	Regional-West	Regional-West-SS	87773001、Primary	3001、RW
Terry Jones	Regional-West	Regional-West-SS	87773333、Primary	3333、RW

- Headquarters サーバ上には、VPIM ロケーションとして設定された VPIM サーバ (VPIM-South) があります。この VPIM ロケーションは、8468 という DTMF アクセス ID を持ち、ブラインドアドレス宛先検索を許可するように設定されています。また、Primary パーティションに属し、Headquarters-SS サーチスペースを使用するように設定されています。
- 各サーバの Attempt Sign In 直接ルーティングルールと Attempt Forward 転送ルーティングルールは、そのサーバ上のユーザと同じサーチスペースを使用するように設定されています (たとえば、Headquarters サーバ上のルールでは、Headquarters-SS サーチスペースが使用されます)。

この例では、Connection ユーザは 4 桁の内線番号を使用して、そのユーザ自身のサイトに存在する他の Connection ユーザを宛先に指定できます。さらに、8 に続く 7 桁の内線番号を使用して、社内に存在する任意のユーザを宛先に指定できます。ユーザは、8468 に続けてリモートシステムのメールボックス番号を入力することで、VPIM メールボックスに対してメッセージのブラインドアドレス宛先検索を行うことができます。VPIM-South VPIM ロケーションに存在するユーザは、8 に続く 7 桁の内線番号で VPIM メッセージの宛先が指定されている場合、社内に存在する任意のユーザを宛先に指定できます。

たとえば、Alex Abade が電話機のキーパッドで内線番号 3002 を入力してメッセージの宛先を指定した場合、Connection は、一致するユーザとして Chris Brown を返します。Alex が電話のキーパッドで SMITHR (764847) を入力してメッセージの宛先を指定した場合、Connection は、764847 という入力に一致する Pat Smith と Robin Smith の両方を返します。Alex が「Robin Smith」と言ってメッセージの宛先を指定した場合、Connection は Robin Smith を返します。

電話システムでは、4 桁の内線番号、または 8 に続く 7 桁の内線番号のいずれかで内部発信者を識別するように設定できます。各発信者は、それぞれのホームサーバに電話をかけて Connection にログオンする必要があります (クロスサーバログオンおよびクロスサーバ転送の設定については、「[デジタルネットワークの使用法](#)」の章を参照してください)。

## Cisco Unity Connection での検索スペースの機能

検索スペース間の対話と、Connection のさまざまな概念の詳細については、次の各項を参照してください。

- [検索スペースとユーザ \(P.28-6\)](#)
- [検索スペースとコールルーティング \(P.28-7\)](#)
- [検索スペースとシステム同報リスト \(P.28-7\)](#)
- [検索スペースとシステムコールハンドラ \(P.28-8\)](#)
- [検索スペースとディレクトリハンドラ \(P.28-8\)](#)
- [検索スペースとインタビューハンドラ \(P.28-8\)](#)
- [検索スペースとデジタルネットワークング \(P.28-8\)](#)
- [検索スペースとVPIMロケーション \(P.28-9\)](#)
- [検索スペースとシステム連絡先 \(P.28-9\)](#)

### 検索スペースとユーザ

ユーザが Cisco Unity Connection にログオンした状態では、ユーザの検索範囲により、次の場合にユーザがアクセスできるオブジェクトが定義されます。

- 内線番号でメッセージの宛先を指定する。
- 名前でメッセージの宛先を指定する。
- メンバーをプライベート同報リストに追加する。
- 名前をアドレス指定優先順位リストに追加する。
- 名前を言って別のユーザに電話をかける。
- VPIM 連絡先をメッセージの宛先に指定する。
- VPIM ロケーションに対してメッセージのブラインドアドレス宛先検索を行う。

ユーザは、各自の検索範囲として定義されている検索スペースに属するパーティション内のオブジェクトだけにアクセスできます。この検索スペースには、ユーザのプライマリ内線番号または代行内線番号を持つパーティションが含まれている必要はありません。Connection は、ユーザが Connection との対話で電話（電話機のキーパッドキー）を使用しているか、ボイスコマンドを使用しているか、Cisco Personal Communications Assistant (PCA) などの表示クライアントを使用しているかにかかわらず、ユーザの検索範囲を適用します。

ユーザがメッセージの宛先を内線番号で指定しており、かつ検索スペース内の異なるパーティション内にオーバーラップしている内線番号がある場合、Connection は、検索スペース内のそれらのパーティションを、Cisco Unity Connection の管理の [割り当てられたパーティション (Assigned Partitions)] リストに示されている順序で検索し、最初に見つかった結果を返します。

ユーザが、自分の検索スペースにないパーティションに含まれている送信者からメッセージを受信した場合は、その送信者に返信することはできません。メッセージが複数の受信者に送信された場合や、ユーザが全員に返信した場合、そのユーザは、自分の検索スペース内のパーティションに含まれていないすべての受信者について不達確認を受信します (Connection が確認メッセージを送信するように設定されている場合)。

## サーチスペースとコールルーティング

Cisco Unity Connection に着信があると、まずその通話は適切なルーティングテーブルでチェックされます。使用されるテーブルは、発信者が Connection に直接ダイヤルしたか、内線番号から転送されたかによって異なります。Connection が、通話のパラメータに基づいた適切なテーブルで通話をコールルーティングに対応付けると、コールルーティングの設定によって通話の初期検索範囲が決まります。システムコールハンドラなどの他のオブジェクトに通話がルーティングされると、通話の初期検索範囲はコールルーティングによって設定されますが、そのオブジェクトによって検索範囲が後で変更される場合もあります。

適切な検索範囲をコールルーティングに簡単に設定するには、コールルーティングの条件を設定し、着信コールのポート、電話システム、ダイヤル番号などの基準でルールを選択します。複数のパーティションと複数のサーチスペースを設定する場合は、各コールルーティングに設定されている検索範囲の影響について慎重に考慮する必要があります。コールルーティングでの検索範囲の設定に関する、次の検討事項に注意してください。

- Connection は、通話の初期検索範囲として定義されているサーチスペースを使用して、ユーザからの通話かどうかを識別し、ユーザからの通話の場合は、どのユーザかを識別します。ユーザが、あるパーティション内の内線番号から電話をかけ、そのパーティションが通話の初期検索範囲として設定されているサーチスペースのメンバーでない場合、その通話はそのユーザからのものであると識別されません。そのユーザの内線番号が、このサーチスペースに表示される別のパーティション内の内線番号とオーバーラップしている場合、その通話は、Connection がサーチスペースでの表示順にパーティションを検索しているときに検出した最初のオブジェクトからのものであると識別されます。
- Connection に電話をかけてログオンするユーザがログオンプロセスを正常に完了するまでは、ユーザプロファイルに定義されているサーチスペースがそのユーザの検索範囲として設定されません。

ユーザがさまざまなパーティションにセグメント化され、パーティション間で内線番号がオーバーラップしている場合は、ユーザが Connection に電話をかけてサインインを試みる際に Connection が内線番号でユーザを認識する方法について検討する必要があります。たとえば、カンザスシティにいる Kelly Bader とシカゴにいる Chris Jones がどちらも内線番号 3001 を使用しているときは、Kelly が内線番号 3001 から Connection に電話をかけた場合、Connection がその内線番号を Kelly に属するものと認識し、適切なユーザプロファイルでパスワードをチェックするように、通話管理計画を設定する必要があります。Chris が内線番号 3001 から電話をかけた場合についても、同様に設定します。この処理を行うようにコールルーティングを設定するには、複数の方法があります。たとえば、特定の電話システムからの着信に基づいて直接ルーティングルールを設定して、カンザスシティの電話システムからの通話を 1 つのコールルーティングに対応させることができます。それには、Kelly が含まれているパーティションが、Chris が含まれているパーティションより前に配置されている（または、Chris が含まれているパーティションが配置されていない）サーチスペースに対して、通話の検索範囲を設定します。その後、同様の直接ルーティングルールをシカゴからの通話に対して設定します。また、カンザスシティとシカゴに対してそれぞれ異なるパイロット番号を設定し、[発信番号 (Dialed Number)] コールルーティング条件を使用することにより、2 つの異なるサーチスペースを使用するように設定されている 2 つの異なるコールルーティングを区別することもできます。

## サーチスペースとシステム同報リスト

各システム同報リストはパーティションに属しているため、サーチスペースを使用して、リストにメッセージを送信しようとするユーザアクセスを制限できます。特定のユーザグループの検索範囲に含まれていないパーティションに同報リストを配置すると、それらのユーザは、その同報リストを見つけることができず、メッセージの宛先として指定できなくなります。たとえば、「Distribution Lists Partition」という新しいパーティションを作成し、そのパーティションを使用するように allvoicemailusers、allvoicemailenabledcontacts、および undeliverablemessages を設定できます。これら

のリストに送信するためのアクセスを特定のユーザに許可するには、デフォルトのパーティションと「Distribution Lists Partition」の両方を含む新しいサーチスペースを作成し、そのサーチスペースをそれらのユーザの検索範囲として割り当てます。

## サーチスペースとシステムコールハンドラ

Cisco Unity Connection はコールハンドラ検索範囲を使用して、コールハンドラからユーザ、システム連絡先、および VPIM ロケーションのリモート連絡先にダイヤルされた内線番号を照合します。ハンドラの検索範囲は、(前のハンドラまたはコールルーティングからの) 通話に対してすでに設定されている検索範囲を継承するように設定するか、または指定した特定の検索範囲を使用するように設定することができます。

コールハンドラを使用すると、発信者の入力に基づいて通話の検索範囲を変更できます。たとえば、サイトを選択するメニュー（「シカゴは 1、ニューヨークは 2 を押してください」）を発信者に示す導入的なコールハンドラを使用して、複数サイトの自動受付を設定できます。このコールハンドラに対して設定された短縮ダイヤルルールにより、発信者は 2 つのコールハンドラのいずれかに送信されます。これを受けて、そのサイト（シカゴまたはニューヨーク）に対応するサーチスペースがその通話の検索範囲として設定され、通話は共有ガイダンスコールハンドラに直接送信されます。選択を終えた発信者が、通話の検索範囲を継承するように設定されているコールハンドラまたはディレクトリハンドラに到達した場合、これらのハンドラは、適切なサイトのユーザおよびその他のオブジェクトだけに到達するように、範囲が正しく設定されます。

## サーチスペースとディレクトリハンドラ

ディレクトリハンドラの範囲を設定して、そのディレクトリハンドラに到達した発信者が検索または再生できるオブジェクトを定義できます。電話ディレクトリハンドラの場合、サーバ全体、特定のサービスクラス、システム同報リスト、またはサーチスペース（通話から継承したもの、またはディレクトリハンドラに対して指定したもののいずれか）を範囲として設定できます。音声対応ディレクトリハンドラの場合、サーバ全体またはサーチスペース（通話から継承したもの、またはディレクトリハンドラに対して指定したもののいずれか）を範囲として設定できます。

発信者がディレクトリハンドラで特定の名前を検索するとき、サーチスペースがディレクトリハンドラの範囲として設定されていると、Cisco Unity Connection は、そのサーチスペースの各パーティション内を検索し、その名前と一致するオブジェクトがすべて含まれたリストを返します。

## サーチスペースとインタビューハンドラ

各インタビューハンドラはパーティションに関連付けられているため、サーチスペースに含めることができ、発信者はカンパシーションの他の部分からインタビューハンドラにアクセスできます。インタビューハンドラは、ユーザまたはその他のオブジェクトへのダイヤルや宛先指定に関与しないため、検索範囲が定義されていません。

## サーチスペースとデジタルネットワーキング

Cisco Unity Connection サーバとその他の Connection ロケーションがネットワーク接続されている場合、サーバ上に設定されているパーティションとサーチスペースが、ネットワーク上のその他すべての Connection ロケーションにレプリケートされます。1 つの Connection ネットワークは、最大で 50 個のパーティションと 50 個のサーチスペースをサポートし、これらは最大 5 つの Connection ロケーションで共有されます。

デジタル ネットワーキングを使用して複数の Connection サーバを接続する場合、サーバ間のデジタル ネットワーキングを初めて設定するときは、あるサーバ上のユーザが他のサーバ上のユーザをメッセージの宛先に指定できないということに注意してください。これは、各サーバ上のユーザが別々のパーティションに含まれており、これらのユーザが使用するサーチスペースには、他のサーバ上のユーザを持つパーティションが含まれないためです。ユーザが他のサーバ上のユーザを宛先に指定できるようにするには、少なくとも、ローカル ユーザが使用するサーチスペースにリモート Connection サーバのパーティションを追加する必要があります。

## サーチスペースと VPIM ロケーション

各 VPIM ロケーションは、1 つのパーティションに属しています。VPIM ロケーションがブライントアドレス宛先検索を許可しており、そのロケーションが属するパーティションがユーザのサーチスペースに含まれている場合、ユーザはリモート VPIM システム上のユーザに対してブライントアドレス宛先検索を行うことができます。ブライントアドレス宛先検索を行う場合、ユーザが指定するメッセージの宛先は、VPIM ロケーションの DTMF アクセス ID にリモート ユーザ メールボックス番号を続けたものになります (たとえば、VPIM ロケーション 555 にあるメールボックス 1000 に到達するには、5551000 をメッセージの宛先に指定します)。

VPIM ロケーションが連絡先を自動作成できるように設定されている場合、VPIM ロケーションのパーティションは、自動的に作成された VPIM 連絡先のパーティションとして使用されます。ただし、VPIM 連絡先のパーティションは、関連付けられている VPIM ロケーションに関係なく、Cisco Unity Connection の管理で変更できます。Connection ユーザは、連絡先の名前を言うかキー入力するか、あるいは「<名前> at <ロケーション>」と言って、VPIM 連絡先をメッセージの宛先に指定できます。ただし、連絡先は、その Connection ユーザのサーチスペースにあるパーティションに属している必要があります。

各 VPIM ロケーションには検索範囲も設定されています。Connection は、VPIM ロケーションの送信者からメッセージを受信すると、そのロケーションの検索範囲として定義されているサーチスペース内を検索し、[宛先 (To:)] アドレスフィールドの内線番号と Connection ユーザを照合して、メッセージの受信者を判別します。

ユーザが VPIM ロケーションの DTMF アクセス ID およびリモート ユーザ メールボックス番号を入力して VPIM メールボックスをメッセージの宛先に指定した場合、または音声認識ユーザが名前とロケーション (たとえば「John Smith in Seattle」) を言った場合、そのアクションは、VPIM ロケーションのパーティションに基づいて許可または拒否されます。ただし、ユーザが名前をキー入力するか、連絡先のローカル内線番号を入力して、VPIM 連絡先を宛先に指定した場合、または音声認識ユーザが連絡先の名前をロケーションなし (たとえば「John Smith」) で言った場合、そのアクションは、VPIM ロケーションのパーティションがユーザの範囲に含まれているかどうかにかかわらず、VPIM 連絡先のパーティションに基づいて許可または拒否されます。

## サーチスペースとシステム連絡先

各システム連絡先はパーティションに属しています。発信者がボイス コマンドで電話をかけるときに使用できる電話番号が連絡先に設定されている場合、連絡先のパーティションが自分のサーチスペースに含まれている音声認識ユーザは、連絡先に電話をかけることができます。このパーティションが自分のサーチスペースに含まれていないユーザは、連絡先に電話をかけることはできません。また、このパーティションが含まれているサーチスペースを検索範囲として使用または継承する音声対応ディレクトリ ハンドラに到達した場合、その発信者は連絡先に到達することができます (または、サーバ全体がディレクトリ ハンドラの検索範囲として設定されている場合に到達することができます)。

## パーティションの管理

Cisco Unity Connection の管理でパーティションを作成するには、パーティションの名前を入力し、そのパーティションを保存します。パーティションを作成した後は、個々のオブジェクトまたはテンプレートをパーティションのメンバーとして設定することで、パーティションを実装します。

### パーティションを作成する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[パーティション (Partitions)] をクリックします。
  - ステップ 2** [パーティションの検索 (Search Partitions)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
  - ステップ 3** [新規パーティション (New Partition)] ページで、パーティションの名前を入力します。
  - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
  - ステップ 5** [パーティションの編集 (Edit Partition)] ページで、パーティションの説明を追加して、用途の説明や、他のパーティションとの区別を行うことができます。そのためには、[説明 (Description)] フィールドにテキストを入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- 

パーティションの名前または説明は、変更することができます。パーティションメンバシップを変更するには、個々のメンバーオブジェクトを編集する必要があります。

### パーティションを修正する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[パーティション (Partitions)] をクリックします。
  - ステップ 2** [パーティションの検索 (Search Partitions)] ページで、修正するパーティションの表示名をクリックします。



**(注)** 修正しようとするパーティションが検索結果テーブルに表示されていない場合は、ページ上部の検索フィールドに必要なパラメータを設定して、[検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 3** [パーティションの編集 (Edit Partition)] ページで、必要に応じて名前または説明を変更します。
  - ステップ 4** [パーティションの編集 (Edit Partition)] ページで設定を変更した後は、[保存 (Save)] をクリックします。
- 

パーティションが空の場合（パーティションのメンバーであるオブジェクトがない場合）、およびパーティションがシステムのデフォルトパーティションとして設定されていない場合は、パーティションを削除できます。空ではないパーティションを削除しようとする、そのパーティションは使用中であるため削除できないという警告が Cisco Unity Connection によって表示されます（パーティション内のすべてのユーザを検索して別のパーティションに移動するには、[P.28-16](#) の

「Cisco Unity Connection 一括編集ユーティリティでのパーティションまたはサーチスペースを基準としたユーザの検索」を参照してください。

### パーティションを削除する

---

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[パーティション (Partitions)] をクリックします。

**ステップ 2** [パーティションの検索 (Search Partitions)] ページで、削除するパーティションの表示名の隣にあるチェックボックスをオンにします。



**(注)** 削除しようとするパーティションが検索結果テーブルに表示されていない場合は、ページ上部の検索フィールドに必要なパラメータを設定して、[検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、[OK] をクリックして削除を確定します。

---

## サーチスペースの管理

### サーチスペースを作成する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[サーチスペース (Search Spaces)] をクリックします。
- ステップ 2** [サーチスペースの検索 (Search Search Spaces)] ページで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [新規サーチスペース (New Search Space)] ページで、サーチスペースの名前を入力します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 5** [サーチスペースの編集 (Edit Search Space)] ページで、サーチスペースの説明を入力します。
- ステップ 6** このサーチスペースに割り当てられたパーティションのリストにパーティションを追加するには、[割り当てられていないパーティション (Unassigned Partitions)] リストでパーティションの名前をクリックし、リストの上にある上向き矢印をクリックします。
- ステップ 7** [割り当てられたパーティション (Assigned Partitions)] リストのパーティションの順序を変更するには、移動するパーティションの名前をクリックし、リストの右にある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 8** パーティションメンバシップを変更した後は、[保存 (Save)] をクリックします。
- 

### サーチスペースを修正する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[サーチスペース (Search Spaces)] をクリックします。
- ステップ 2** [サーチスペースの検索 (Search Search Spaces)] ページで、修正するサーチスペースの表示名をクリックします。
- ステップ 3** [サーチスペースの編集 (Edit Search Space)] ページで、必要な設定を変更します。
- ステップ 4** このサーチスペースに割り当てられたパーティションのリストにパーティションを追加するには、[割り当てられていないパーティション (Unassigned Partitions)] リストでパーティションの名前をクリックし、リストの上にある上向き矢印をクリックします。
- ステップ 5** [割り当てられたパーティション (Assigned Partitions)] リストのパーティションの順序を変更するには、移動するパーティションの名前をクリックし、リストの右にある上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 6** [サーチスペースの編集 (Edit Search Space)] ページで設定を変更した後は、[保存 (Save)] をクリックします。
-

検索スペースを使用しているオブジェクトがある場合でも、検索スペースを削除することはできません。ただし、この場合は、置換検索スペースを選択する必要があります。削除された検索スペースに検索範囲が設定されているオブジェクトは、代わりに置換検索スペースを使用するように変更されます。

### 検索スペースを削除する

**ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ダイヤルプラン (Dial Plan)] を展開し、[検索スペース (Search Spaces)] をクリックします。

**ステップ 2** [検索スペースの検索 (Search Search Spaces)] ページで、削除する検索スペースの表示名の隣にあるチェックボックスをオンにします。



**(注)** 削除しようとするパーティションが検索結果テーブルに表示されていない場合は、ページ上部の検索フィールドに必要なパラメータを設定して、[検索 (Find)] をクリックします。

**ステップ 3** [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックし、[OK] をクリックして削除を確定します。

## システムのデフォルトパーティションとデフォルトサーチスペースの変更

システムのデフォルトパーティションとデフォルトサーチスペースは、テンプレートに基づかない新規オブジェクト（たとえば、新しいコールハンドラテンプレート、ディレクトリハンドラ、またはインタビューハンドラ、あるいは新しいコールルーティング）を作成するときに使用されます。Cisco Unity Connection の管理では、システムのデフォルトパーティションは、このような新しいオブジェクトの [パーティション (Partition)] リストにデフォルトで表示されます。また、システムのデフォルトサーチスペースは、[検索範囲 (Search Scope)] リストにデフォルトで表示されます。管理者がページを保存する前に、異なる値をリストから選択しない限りは、これらの値がオブジェクトの作成時に使用されます。これらの値は、後でオブジェクトを編集して変更することもできます。

システムのデフォルトパーティションとデフォルトサーチスペースを変更しても、すでに作成されているオブジェクトまたはテンプレートには影響しません。

### システムのデフォルトパーティションとデフォルトサーチスペースを変更する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] を展開し、[一般的な設定 (General Configuration)] をクリックします。
  - ステップ 2** [一般的な設定の編集 (Edit General Configuration)] ページの [デフォルトパーティション (Default Partition)] フィールドで、新しいデフォルトパーティションの名前をクリックします。
  - ステップ 3** [デフォルトの検索範囲 (Default Search Scope)] フィールドで、新しいデフォルトサーチスペースの名前をクリックします。
  - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

## パーティションまたはサーチスペースに属するオブジェクトの検索

オブジェクトが属するパーティションまたはサーチスペースに基づいてオブジェクトを検索するには、複数の方法があります。次の各項を参照してください。

- [Cisco Unity Connection の管理でのパーティションを基準としたオブジェクトの検索 \(P.28-15\)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability でのパーティションを基準としたオブジェクトの検索 \(P.28-15\)](#)
- [Cisco Unity Connection 一括編集ユーティリティでのパーティションまたはサーチスペースを基準としたユーザの検索 \(P.28-16\)](#)

### Cisco Unity Connection の管理でのパーティションを基準としたオブジェクトの検索

Cisco Unity Connection の管理で、パーティションメンバシップを持つオブジェクトの検索ページの [検索制限 (Search Limits)] フィールドを使用すると、特定のパーティションに属するタイプのオブジェクトを検索できます。

パーティションによって検索を制限するには、次の手順を実行します。

#### パーティションによって検索を制限する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、必要な**検索**ページに移動します。
- ステップ 2** [検索の対象を制限: (Limit Search To)] リストから、[**パーティション (Partition)**] を選択します。
- ステップ 3** [名前 (Where Name Is)] リストから、オブジェクトの検索範囲とするパーティションの名前を選択します。



**(注)** ユーザを検索している場合、そのパーティション内のプライマリ内線番号だけを表示するか、そのパーティション内のプライマリ内線番号と代行内線番号の両方を表示するかについても選択できます。プライマリ内線番号と代行内線番号の両方を選択した場合は、1 人のユーザについて複数のレコードが検索結果に表示されることがあります。

- ステップ 4** 検索をさらに制限する場合は、検索フィールドで検索パラメータを指定し、検索対象の文字を入力します。[**検索 (Find)**] をクリックします。

### Cisco Unity Connection Serviceability でのパーティションを基準としたオブジェクトの検索

Cisco Unity Connection Serviceability の Dial Search Scope (ダイヤル検索範囲) レポートを使用すると、特定のパーティションに含まれるすべてのオブジェクトとその内線番号のリスト、または Cisco Unity Connection ディレクトリにあるすべてのパーティションのすべてのオブジェクトとその内線番号のリストを取得できます。また、特定のサーチスペースを検索範囲として使用するすべてのオブジェクトのリストも取得できます。

レポートを生成および表示する方法の詳細については、『*Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーションガイド Release 7.x*』を参照してください。このドキュメントは、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/7x/serv\\_administration/guide/7xcucservagx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/serv_administration/guide/7xcucservagx.html) から入手可能です。

## Cisco Unity Connection 一括編集ユーティリティでのパーティションまたはサーチスペースを基準としたユーザの検索

Cisco Unity Connection 一括編集ユーティリティでは、パーティションメンバシップまたは検索範囲を基準としてユーザアカウントを選択できます。

一括編集ユーティリティを使用して、ユーザをパーティション間で移動したり、複数のユーザの検索範囲を一度に変更したりできます。

### Cisco Unity Connection 一括編集ユーティリティでパーティションまたはサーチスペースを基準としてユーザを検索する

- 
- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[ツール (Tools)] を展開します。
  - ステップ 2** [一括編集ユーティリティ (Bulk Edit Utility)] をクリックします。
  - ステップ 3** [ボイスメールがあるユーザ (Users with Voice Mail)] をクリックします。
  - ステップ 4** 特定のパーティションに含まれるユーザを検索するには、[ユーザの選択 (Select Users)] リストで [このパーティション内のユーザ (Users in This Partition)] を選択し、パーティションの名前をクリックして、[検索 (Find)] をクリックします。

また、特定の検索範囲を持つユーザを検索するには、[ユーザの選択 (Select Users)] リストで [検索範囲を持つユーザ (Users With Search Scope)] をクリックし、サーチスペースの名前をクリックして、[検索 (Find)] をクリックします。

---